みぶ町政だより

壬生史帖

年貢のいろいろ

徳川時代の百姓に納せられた年貢（税）は❶本納物成（ほんとうのもの）といって検地による耕地面積への年貢で四公六民（四割納めて六割自己のもの）とが後には五公五民となった。

❷高掛物（たかかけもの）は伝馬宿入用＝川米運賃の費用で百石につき大升、六尺給米＝領主へ人夫代として百石につき二升、口米＝代官所の費用で一俵につき一升、欠米＝運搬損耗分として二石につき三升、藏前入用＝浅草藏前に納める費用で百石につき二升などがあったその他領主裁量で山年貢、山手米、野役米、茶年貢、網代役、高掛物郷免があり本町三領人に深い関係がでてくる。（十竜）

統計より

人口
① 25,246人（男）12,266人（女）12,980人
② 出生 45人（男）17人（女）40人
死亡 4,297件
婚姻 104件
（12月1日調べ）

国民健康保険

来春四月から実施へ

農家や商店の方で病気やけがをしても、医者にかかるのをがまんしている方はありませんか、家計の都合でたとえ多少であっても医療費を考えてしまう方はありませんか。病気をすれば仕事も出来ないし収入も減ってまいります。

しかも残念なことには、私たちのだれ一人として「自分はぜったい病気やけがをしない！」といい切れる方はおりません。

○医療は国民健康保険で

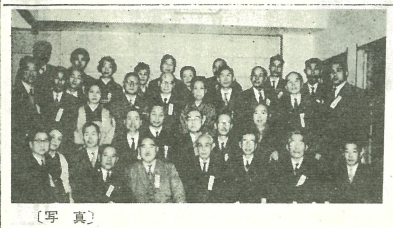
私たちの国のりっぱな病気にかかっても、大して負担をしないで暮らしている方がたくさんいます。会社、役所、工場、学校へ勤める人などです。この人たちは健康保険証に入っているので月にむずかの掛金（保険料）といいます）を払って治療をしております。

農家や商店の方はこのような利益を受けられないで、大へん不公平な立場におかれております。

今度壬生町で行う国民健康保険では町民の七割にあたる二千、九千人の方たちにおしえ事業をはじめます。私たち住民は町に毎年掛金を払い、病気になったとき病院や医院で診てもらったり、入院もできいろいろなサービスを受けることができます。

○部落説明会にとうぞ

来春四月一日の発足をあけて準備をしております。また町当局も部落に出むいて説明会をもよおします。その節は一家族一人ずつ出席されるよう願うものであります。



〔写真〕お元気な在京の方々

東京在住の郷友会（会長＝西川忠三氏、会員二八名）では総会を十一月二十八日午後六時から港区内幸町六丁目鹿鳴館で催しました。

この日、本町から小田川町長と出納総務課長が招待されて出席しました。

会員入口には〝受付〟の札が設けられ、例年のように華やかで壬生町の困った人におおるよう計画されております。郷友会の方の喜心が身にしみます。

西川会長から「今後は町当局ともども連絡をとって会の発展、町の進展に協力をしよう」と挨拶されました。

小田川町長からも郷友会の発展と町への協力の挨拶があり今後積極的に町当局と連絡をとって会の発展に協力することを申し合せました。

席上、南大通り地区の出身者にも呼びかけて加わってもらうよう申し合せました。とくに当日は雑司ヶ谷神社の例祭なので小田川町長の話に感激をさそわれたようでした。

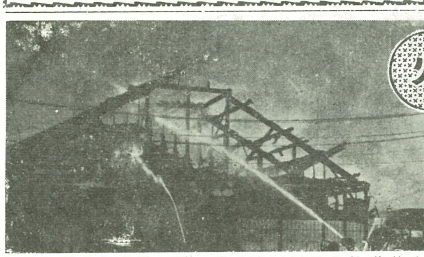
町との協力関係を

在京・郷友会のつどい

雑々（雑誌神社）しく鉄びびと　ひびかせて
鳴宿をよれば　神をまつります

〔出席者は次のとおりでした。

栃木四郎、須川忠次、安納定吉、石崎喜一、秋山淑蔵、石崎トク、糸井実、白井房吉、内山武、太田金吾、川上三、北条秋次、国塚千代、熊川成明、小出国一、清水トク、須藤徳治、鈴木順七、鈴木徳助、鈴木勝次、大塚正治、鳥居彦七郎、中山金四郎、西川忠三、吉岡善徳、堀越六蔵、松本軍夫、山川誠、山川知、山川茂衛、山川源吉、山川岩五郎夫人、渡辺キク



火事はこわい

〈家庭生活と火災〉

私たちは町民一人々々がもう少し火を慎ねなくてはいけないのではないでしょうか。私たちの家庭生活の中に石油コンロ、プロパンガス、電気器具などがたくさんふえてきております。

このような器具の扱いをもう一度研究して、知識を豊富にいたしましょう。十二月にはいって火事がひんぱんにおきています。（写真は磐州綿織の火災）

その一　災予防運動期中の十二月一日午後金国火一斉に四十分から、中表町磐州綿織工業株式会社（綿糸織布業社長）の紡績工場から出火同工場＝二階・七百坪＝はか四百坪を全焼し損害二千九百万円、負傷者は五名（男三名、女四名）。この日は庶務市町長のポンプを含め二十五台の出動がありました。出火原因の不明が特徴されます。

その二　十二月一日午前十二時二十分ごろ羽生田農業協同組合清ごさん（ごみ）方で納屋一むね二十八坪を焼き、原因は不明の火災らしい。損害四十五万円。当日の出動ポンプ四台。

その三　同日午後七時ごろまた下稲葉磐州綿織株式会社（紡績工場）でも納屋から出火、同納屋など約二百坪を全焼し損害二十八万円、負傷者一名で原因は調べ中です。出動ポンプ二台。

その他消防団員の警防活動大抵ではありません。私たち住民は火を出さない心がけをもちましょう。さて、さいきんの火災の傾向をみますと

火災の90%は失火

ご苦労さん消防員

①出火の率は大きい都市に多く都部の方は低いのです。

②火災の原因の九割は失火となっています。こんろ、たばこ、煙とう、火あそび、放火などが多いことです。

③火災件数と出火率は、

人口の増加や産業文化の発達に従って年々増加の傾向にあります。

気象と火災

もう一つ火災の発生しやすい気象というものを考えてみましょう。私たちの町は北関東に位置しておりますが、こから西風が強く吹く風になります。

こういう時は日本全国にわたって西の風が強く吹き全国的に晴れています。この場合も強風と乾燥がともなっています。

〈火災通報は早く〉

さて話を元に戻しましょう。一たび火災が出ると通報はこわねばいけません。役場本庁（壬生）近くの場合はただちに消防団にお知らせ下さい。

〈用にゴミをすてることは消防のそ害になります〉

火災発生で消防団が一番困ることは水の確保であります。用にゴミをすてるのは消防の妨害になりますのでぜひ注意下さい。

頼もしいポンプ操法

本年度・通常点検

昭和三十四年度消防点検は、十二月十三日午前八時から壬生小学校々庭に、小山消防団第七分団四五一名が参集し、来賓多数出席のうちに開始されました。

さいきん、ひんぴんとして火災の発生をみているおり、ポンプ操法、小出隊の腕前、分列行進など一きわ注目の的を呈し開催民に深い感銘を与えました。

また当日はれの表彰をうけた団員その他は一八六名に及びました。

▽栃木県消防協会長表彰　国塚千代　▽団長表彰　白井武ほか二十八名

人のうごき

商工会長に毛塚氏
副は上野氏

十一月十九日の商工会定期総会で、小林紳一氏が亡くなられたので改選の会長に毛塚文朗氏、副会長に上野三郎氏が選任されました。毛塚会長の挨拶

あなたの声を県政に

十二月二十日午後一時から、栃木県庁で行なわれた栃県政懇話会に県議会から栃川知事をはじめ各部課長、那須出張所長、那須選出の県会議員、那須郡町村長議長による各市町村長懇談会が行なわれました。

情を訴える鈴木議員

〔写真〕壬生町の土木事

下野新聞社賞表彰
小林良一、落合勝蔵、太田一郎
下都賀郡町村会表彰
上田、粕川の各分団長
壬生町長表彰　功績章
第一分団長　平石邦次
第二分団長　早乙女行之助
第三分団長　日井武
第四分団長　鹿沼高治
第六分団　部長　髙野一ほか二十七名
第七分団　副部長　髙野一ほか二十七名
十年勤続表彰
第六分団　第一分団　早乙女行之助
十七名
十二年勤続表彰
第一分団　早乙女行之助
十七名
十年勤続表彰
第四分団員鈴木利治ほか三十七名
▽水災予報発令者
上田　粕川豊一郎ほか二名
▽団旗引者
仲町　小原竹信ほか二名
▽その他
六十年無災害　仲通町
二十年無災害　鹿沼高治
▽退団者に感謝状
栃川知事から十七名
▽横綱・大ダム無災害表彰
壬生小六年　岩本　準
壬生小六年　永井一子

新らしい民生委員

青木栄助＝上南町、星野トウ＝今井、大島フク＝上武町、山川一＝東台町、鈴木重＝栄町、小野一雄＝通町、大久保徳＝三好町、篠原ミヤ＝城内、倉井千四郎＝原宿、藤原ハマ＝上稲葉、田中定衛＝本宿町、荊川俊平代大久保、渡辺広吉＝上稲葉、都沼喜一＝上稲葉、梁島芳助＝下稲葉、小倉太一郎＝七ツ石、篠崎清一＝七ツ石、落合誠一郎＝羽生田、山口勝一郎＝羽生田、大橋ヨシ＝福井、倉川武＝北条、川久保儀三郎＝中泉、鶴巻順＝上田、川野辺福一郎＝安塚、早乙女助＝安塚、中山長一＝上長田、角田吉之助＝栃木、渡辺乗彦＝助谷、田中善十郎＝国谷、田中長一郎＝国谷

十二月一日は国定一斉交通安全運動の初日です。

三町の納税組合になっております。

おおいそがしのところですが、ご協力のほどお願いいたします。

今月の納税

十二月は町税納税期間です。

今から早目に納税をすませて下さい。

新教育長に十二月十一日
福田元重氏

新しい教育長に福田元重氏が任命されました。

〔略歴〕

大正五年四月栃木県師範学校卒業後教諭として約三十七年、校長生活二十年、その後宇都宮市に壬生町教育委員会の教育長として約三年勤務。

この間引き続き当町議会議長に御推薦を受け、この重職を務めてきたが、御承知のとおり今回新教育長に推薦されました。

成人式の服装は華美にならないように……壬生町社会教育委員会

（保存して御利用下さい）

来春・商業科設置へ

栃農壬生分校

栃農壬生分校の「商業科設置」と「県立移管問題」は現在壬生町文教の大きな課題になっております。県立になると全額県負担で学校の運営をするので学校も充実し本町の負担もなくなる訳になります。

その前提として現在生徒数八十八名、教室五、その他特別教室二で一は問題にならないので、教室を増し商業科を設置して生徒百二十名を増すことになりました。

十二月二日県議会から文教常任委員、教育委員会事務局、地元両県議の視察がありました。本町側から小田垣町長、斎藤議長、学校側、橋本PTA会長が参加して壬生町として強く理解を求めたところ、来春四月から「商業科」の設置が本決りになる模様です。

また県立移管問題も施設の充実、生徒数の増員さえ目やすがつけばあとは時期の問題であるとの言明を得ましたので、その線に沿って努力するよう申合せができました。

地元側と懇談する県文教委

1月のメモ

酸性土壌（苦土欠）とその対策

壬生町の中心を流れる黒川の東部は、大部分第四紀洪積層の火山灰質土壌です。この地帯の畑では一般に酸性が強く燐酸や苦土などが不足しています。

そのために冬作の麦類、特にビール麦や大麦は根が害されて、肥料を吸うことが出来なくなり、麦は黄萎し著るしい場合は枯れてしまいます。

この地帯の麦類は収穫が少なく、特にビール麦は細実が多くて品質も悪いのが普通です。

では火山灰の土壌はどうして酸性になったり、苦土などが不足するのか考えてみよう。

まず第一に火山灰土は一般に硫黄分が多くて塩基に乏しい腐植、つまり酸性腐植が集積した土壌で黒ボクと呼んでいます。また土が軽くて排水が良過ぎるために雨水によって石灰や炭酸及び苦土などの塩基物が、作土から下層に溶脱されて酸性になったり苦土などの微量要素が不足します。

その他硫安、塩安、硫加、塩加などの酸性肥料を毎年連用すると酸性になります。この改良法としては、作付前に酸性を中和すると共に、堆厩肥を増施したり、酸性肥料を避け中性またはアルカリ性の肥料を使用することが根本です。

しかし現在では麦類は生育中途ですから石灰または苦土石灰を反当七十五キロ－百二十キロ位全面に散布して、麦類を酸性から守ってやろう。

個人と団体を表彰

農業振興祭

壬生町農業振興祭は十二月十日中央公民館で盛会のうちに幕を閉ぢました。当日農業振興に大きな役割を果した次の方たちが町長からはれて表彰をうけました。

◇米作　高岩徳次郎＝神代、増山喜一郎＝七ッ石、織田文四郎＝上田）

◇麦作　福田信一郎＝下表町、石井一作＝下稲葉、吉葉義春＝国谷

◇果樹　内藤貞次郎＝六美、琴寄信一＝上稲葉、大垣武男＝上田、

◇そさい　中村宏有＝下馬木奈良蔵＝羽生田、山野久雄＝上田、

◇畜産　検木幸太＝羽生田、鈴木文男＝西高野、大島保＝拓生

◇部落団体　表町採種組合、国谷唐辛子耕作組合、栃木県（羽）生産出荷組合＝羽生田、

◇農事部長　赤羽根善助＝下横町、田辺正憲＝下稲葉、渡辺昇軍＝北小林

◇新農村建設　藤井上郭部落

◇農研　西高野、福和田本田、北小林の各農研

優良農地部長で表彰される田辺正憲氏

一月の天候と麦の管理

大陸方面からの高気圧が、本邦附近を南偏して通過することが期待されるので暖冬気味になります。したがって一月末にはかなり気温の高い日があらわれるかも知れません。

降水量は平年よりやや多目でしよう。

麦類の管理

一月には暖冬の恐れがありますので、麦類の異状生育が心配されます。特に春播性程度の高い品種、例えば小麦の農林六十一号などは伸び過ぎて幼穂の形成が早いので凍霜害を受け易くなります。

対策として出来るだけ早く麦踏みや土入などの作業を充分行い地上部の生育を抑へてやることが大切です。

知つておきたい

土地家屋調査士とは

さいきん土地の境界や家屋の所有権などで争いが多いようですがその際、争いの解決によい資料となるのが登記所に備えてある土地台帳やその付属地図、また家屋台帳です。

この土地台帳と家屋台帳は登記制度（土地、家屋）の基礎となるもので国民生活に深い関係を持っております。

登記制度というのはご承知のように土地や家屋の所有権や抵当権などの権利関係を明らかにすることを目的としております。

台帳制度というのは土地や家屋などの現況を常に明らかにしておくのが目的です。この二つの制度は車の両輪のようなことがおわかりでしよう。

ですからこれらの台帳や地図が争いの解決などに役立つためには、台帳に書かれていることや地図が常に正確であり、現状に合っていなくてはなりません。

家屋を新築するとき、土地を分筆してその一部分を売買するときのように、台帳や地図に変更が生じますので、所有者は変更のあったことを登記所に申告する義務があります。これは法律できまっています。

ではその申告はどのようにしたらよいか正確な測量や調査、それにもとずく登記所への申告など専門的な知識がいるので素人では無理と考えられます。

いきおいこのような業務をする人が必要となってきます。〝土地家屋調査士〟はこのような要求から生れたものです。

土地家屋調査士法という法律によって国家試験に合格し、法務局に〝土地家屋調査士〟として登録を受け、各府県にある土地家屋調査士会に入会している者に限られています。

他人の依頼をうけて土地、家屋の測量や調査、登記所への申告を本人に代ってするわけなので制限をきびしくして、国民の利益を保護しております。

（壬生登記所）

防犯は心にかける戸にかける

〝考える農民を〟

新農村の研修

県下の町村で、町が主催者となって新農村の研修を重点的に取り上げたのは壬生町が始めてです。その研修の様子が県政ニュースで各地に紹介されました。

本年度選ばれた農業振興のモデル部落（八部落で十月号に登載）から男女五名づつで計八十名が、

▽九月十六日から三日間、中央公民館で学科研修（講師の講演と質疑）を行いました。

▽十一月三十日から実地研修として喜連川の土地改良、氏家町の生活改善センターなどの先進地を視察しました。

また夜は宿舎で『現在の農家を住みよく、豊かにするにはどうしたらよいか』について熱心な討議が持たれました。

その主な内容は

❶家畜の導入による地力の増進

❷そ菜の生産販売の問題

❸家庭の民主化の問題

などでした。

申し合せて農休日

七ツ石＝こうしや部落

七ッ石の皇塁庵（こうしや）部落（班長＝青木章一さん）では、昭和三十三年の十二月から、農閑期間中の十二月から五月までの毎月一日を農休日とすることに部落常会で決め実行しております。農休日には特別に行事などは持ちませんが、仕事は一切しないでゆっくり休養したり、お嫁さんなども里帰りに利用したりして部落の評判はまづまづとの事です。

面白い取り決めとして、もし農休日を破って野良へ出たりして働く人がいたときは、翌日部落総出で応援に出かけます。しかしまだ一回も「約束」は破られておりません。何十人のお手伝いに来られた農家の困った様子が想像できましよう。

またこれを聞いて隣りの松原南部落（班長＝小野口己之吉さん）でも今年の十二月一日から農休日を実行しています。

城内チームが優勝へ

―第三回　町内野球大会―

十一月二十二日から第三回壬生町内野球大会は壬生小、中校庭で行なわれ、二十八チームに上る参加があった。折りからの好天気にめぐまれて好ゲームを展開し城内と仲町で決勝が争われ、4対2で城内チームが晴れの優賞カップを手にした。

優勝＝城内、二位＝仲町、三位＝国谷、上田

◎本大会に副賞として町長賞、会長、副会長賞、商工会賞、野州織絣賞＝楨、読売、下野新聞社よりメダルなどの寄贈があった。

決勝戦								
仲町	2	0	0	0	0	0	0	2
城内	0	0	0	1	3	0		4

4×2

鼓笛隊の行進

壬生小学校

壬生小学校の鼓笛隊は小田町長の肝入りで八月に誕生しました。服装はPTAの父兄の方が、廃品回収などした益金でこの程でき上り、十二月十二日町をねり歩きました。紺白な上下に黄色い帽子、楽奏に行進もそろってお母さん方の拍手をうけました。

年末の防犯と交通

街にジングルベルが鳴りひびく歳末そして新春をむかえますが、とくに防犯に心がけてください。

◇家庭の防犯は戸じまりから

盗難の80％は戸じまりの悪い家でおきております。おもに玄関、勝手口、窓からしのびこみます。

◇歳末の深酒は禁物です

忘年会やクリスマスなどで深酒をしないように、自分のくせを知って飲むようにしましよう。けんか、たかり、飲み友だちを装って介抱などで被害をうけないよう注意してください。

交通事故をなくしよう

歳末は人も車もあわただしくなり交通事故も、もっとも多くなります。

❶車のスピードの出しすぎ、酔ぱらい運転はぜひ止めるように

❷歩いている人が道を横ぎるときは、自動車の前やうしろをすぐ横ぎらない

❸歩く人は必ず右がわを通りましよう

華やか終幕（フィナレー）

郡民謡大会

〽北海名物　かずかず　あれどナ　おらがナ　コリヤ　おらが国さの　コリヤ　ソレサナア　盆踊りよ…

舞台の踊り手も華やかなれば、観集も大人満員です。郡芸術祭の終幕をかざった〝民謡大会〟は十一月二十九日午前十時から、壬生町中央公民館ホールで行なわれました。

とくに小川民謡会の〝北海盆唄〟〝佐渡おけさ〟都賀村の〝獅子舞〟〝藤井青年の〝干瓢音頭〟などに人気がわきました。

また町の文化祭も華道、書道、短歌、俳句、写真などの展示で好評をうけました。

【写真】好評だった藤井青年の干瓢音頭

つき合い費が多い

栃木県農家経済調査　③

十月、十一月号で農家の粗収入は増加しているにもかかわらず農業所得の方は横ばいを続けていること。

またその原因として農業経費の増加があげられ、とくに建物に過剰投資が見られる。反面において家畜の収入はわずかに伸びているが酪農に対する研究の余地があり、施肥の方面はおおむね合理化されていること…。

などを書いてきたが、一番問題の多い農家の消費面はどうなっているか研討してみよう。

農家の消費構造についてみると、家計費の増加率の大きいのは住居費、交際費、臨時費などで、家計費の面でも固定設備に対する過剰投資と冠婚葬祭に金をかける傾向が強くなっている。こうしてみると農業経費、家計費両面とも農家が実力以上に無駄なところに多額の金を注ぎ込んでいることが指摘される。

年度別	家計費総額 単位円	対二九年比 %
昭和二九年	二六四、三三三	一〇〇・〇
〃三〇〃	二八二、六一三	一〇六・九
〃三一〃	三一五、五九八	一一九・四
〃三二〃	三三四、九一六	一二六・七

		単位円	%
住居費	昭和二九年	一三、七九八	一〇〇・〇
	〃三二〃	三五、三七四	二五六・四
交際費	〃二九〃	一二、五〇九	一〇〇・〇
	〃三二〃	二〇、一三八	一六一・〇
臨時費	〃二九〃	一三、四八五	一〇〇・〇
	〃三二〃	二〇、三八〇	一五一・〇

（おわり）

お知らせ

職員採用試験

役場臨時職員の募集は十二月十五日に締切りました。採用試験は県人事委員会によって行なわれます。

一、試験日は一月六日（水）午前八時三十分から（一日限り）

二、試験場　壬生町役場二階

三、課目は筆記試験、面接試験

なお役場から採用試験申込書と受験票を本人に送りましたから、申込書は十二月二十五日までに総務課へ提出のこと、また受験票は当日受付に出して下さい。

お正月のもち米

やがてお正月を迎えますがもち米の特配はつぎのとおりです。

一人について

一般もち米　一・五キロ

とく用もち米　一・五キロ

計　三キロ

小林嘉吉氏（六二）壬生町商工会長、九月二日、自宅で肺臓症のため死去。

落合武二氏（四七）壬生町農業委員、九月三十一日、自宅で胃かいようのため死去。

松田安茂氏（六七）壬生町中央公民館長、十月二十四日東京都新宿区井上病院で上咽頭肉腫のため死去。

阿久津安治氏（六〇）民生委員、十一月二十七日自宅でじん臓炎のため死去。

武藤正吉氏（七二）城東町総代、十二月六日自宅で脳出血のため死去。

編集と発行　栃木県壬生町役場